

③⑥昭和町雨水貯留管整備事業

受賞機関 北九州市 上下水道局

キーワード 雨水貯留管、豪雨対策PR動画

全建賞審査委員会の評価ポイント

北九州市小倉北区昭和町地区で発生した浸水被害を受け、「昭和町雨水貯留管」が整備され、平成25年豪雨規模の降雨でも浸水被害を解消した。貯留管の整備により、実際の大雨(50mm/h)時にも道路の冠水はなく、浸水リスクが大幅に低減された取組の効果が確認され、加えて、市民の方が普段目にすることのない下水道管を様々な広報活動により、広く知っていただく機会を創出した点が評価された。

1. はじめに

近年、豪雨による被害は、全国的に激甚化、頻発化する傾向にあり、北九州市でも平成25年、平成29年、平成30年などに浸水被害が発生した。本市の都心部に当たる小倉北区の昭和町や江南町などにおいても床上・床下浸水が発生するなど、市民生活や社会経済活動に大きな影響を及ぼした。

当該地区は、古くから下水道の整備に取り組んでいたため、ほぼすべての管渠が現在の雨水整備基準である10年確率降雨(53mm/h)に対応していなかった。

抜本的な幹線管渠の能力向上策として、増補管等の検討も行ったが、流末ポンプ場の能力や排水先である紫川への影響などを考慮した結果、最も経済的で発現効果の早い「雨水貯留管」の整備を決定した。さらに、ハード対策とソフト対策を組み合わせ、総合的な浸水被害の軽減を目指した。

2. 事業の概要

雨水貯留管整備内容：

- ・延長1,467m、内径3m、貯留量9,500m³
- ・流入渠6箇所
- ・維持管理人孔3箇所
- ・対象流域約130ha

事業費：約60億円

事業期間：平成27年～令和6年5月

3. 事業の成果

1) ハード整備による効果

昭和町雨水貯留管は、10年確率降雨を基準として整備した。本市における最大規模の降雨(平成25年7月、73mm/h)を想定した浸水シミュレーションでは、多少の道路冠水は見られるものの、床上・床下浸水の被害は、おおむね解消されることが確認されている。

令和6年7月1日の大雨(50mm/h)時には、床上・床下浸水はもとより、道路冠水も発生せず整備効果が確認された。

2) ソフト対策による効果

市民の豪雨対策事業に対する理解促進と、地域と連携した本事業推進のため、当該地域の小学生を対象とした管内特別授業や豪雨対策PR動画の制作など複数の活動を行った。

①当該地域の小学生を対象にした管内特別授業

普段は立ち入ることができない管内で、「災害への備え」についての特別授業を実施した。



管内特別授業の様子

②豪雨対策PR動画の制作及び公開

動画の拡散、公開を通じて昭和町雨水貯留管をはじめ本市の豪雨対策の取組などを広くPRした。令和7年6月時点で、総再生数33,000回を超えており、多くの方に視聴いただいている。これにより、市民の防災意識の向上に貢献していると考えている。



豪雨対策PR動画の一部

4. おわりに

今回の昭和町雨水貯留管整備事業は、小倉都心部という地域特性を踏まえ、ハード・ソフト両面から総合的な豪雨対策事業に取り組み、一定の成果を得ることができたと考える。昭和町雨水貯留管をはじめ、下水道施設は普段市民が目にする「モノ」ではないが、今後も市民の安心・安全を支えていく使命を持ち、日々の業務に邁進したい。